

城西病院で脳内の腫瘍摘出手術

城西病院で6月11日、脳神経外科の開頭腫瘍摘出手術が行われました。

患者さまは70歳代の女性で、足などにしびれの症状が起きており、脳内に良性腫瘍があることが分かっていました。最近になって足のしびれがひどくなって転倒することもあり、今回、腫瘍を摘出手術を行うことになりました。

「開頭による腫瘍摘出手術は、総合力が試される手術です」と執刀した脳神経外科の後藤晴雄部長は説明します。

手術の約1週間前、6月5日に血管カテーテルを使い、腫瘍に通じる血管を詰める手術を行いました。腫瘍を摘出した際に、可能な限り出血を抑えるための手術です。手術後も適切なりハビリが不可欠となります。城西病院では、こうした治療のつながりが十分可能となったために、今回の手術が行われました。

手術は午前10時に開始。全身麻酔で頭部を執刀、顕微鏡装置を使って注意深く腫瘍を摘出し、5時間弱かけて、無事手術が終了しました。合併症や後遺症もなく、手術は無事終了し、現在は自分で食事ができるまでに回復したといいます。

後藤部長は、獨協医科大学附属病院に勤務している約1年半の間に、年間約100件にも及ぶ開頭手術を行ってきました。



今回の手術は、城西病院に着任してから初めての開頭手術でした。「今回のような、高度脳外科手術がこの病院で行うことができました。開頭手術の中でも一番病院の総合力が試される手術です。さまざまな治療のつながりができなければ、患者の完治につながっていくことができません。今回の手術が実施できたことは、開頭術一般を行うことができる状況になったということです。外傷や脳出血など多くの手術も行うことができる状況になっています」と後藤部長は話していました。

2020年6月22日



©Tasseido group

